

図書館報

# SEASON

2022 AUTUMN No.59



写真：創価大学と中央図書館 2022

ISSN 1349-3760

2 コラム 「図書館の魅力と自分にとって貴重な本との出会い」 平井康章 教育学部准教授

4 特集 「図書館イベントやってます！」

8 図書館掲示板



「図書館」や「読書」について、改めてこれまで抱いてきた想いや自身の行動を振り返ってみることにする。

まず読書について簡単に正直なところを触れておきたい。お恥ずかしい話であるが、中学・高校時代は期末試験が近づいたりするときにだけ、読書意欲が増してくることを感じていた。単に試験の勉強に向かうことから逃避するための理由づけに過ぎなかったのであるが、この若い時期に良書を貪り読んでいくことこそが、将来のより良き自分をつくる、などと自己正当化を図っていた。しかし試験が終わってしまうと、読書への意欲が急速にしぼんでしまうという情けない状況で、試験前に読んでいた本を読み切ることもなく投げ出してしまい、やり遂げた感すら持たずに過ごしてきたことが多かった。

図書館については、小学生の頃から、近所の公共図書館に出かけると、本を積み重ねて勉強している方々を見たり、静寂な室内の雰囲気にも影響されて、いつになく向学心が芽生えることを子どもながらに感じていた。本学の学生だった頃を思い出しても、中央図書館で本を探していたりする中で、本を開いて真剣に学んでいる他の学生を眺めるにつけ、単純に影響を受けやすい自分はそのことに刺激され、自分も負けずに学んでいこうという想いに駆られることがしばしばあった。私にとって図書館は学びの資料を得る所であるとともに、学びに

向かう刺激を与えられるところであったと思う。

図書館の魅力として今、感じているのは、時間に余裕があれば余り関心のない分野などの書籍を眺め歩くことで、思わぬ発見や自身に大きな影響を与える本と出会えることがある、という点である。図書館の蔵書規模にも左右されるが、各地の公共図書館では、地域性も踏まえて特集コーナーを随時設けていたりして、出かけた先にあった図書館を覗いてみることも楽しみにしている。大きな書店でも同様の発見はあるものの、どうしても新刊本が中心に成らざるを得ない。その点、図書館は入れ替えがあるものの古めの書籍もバランス良く配架されている点が大きな魅力といえる。

スマホで気になる情報を直ぐに検索できる時代になり、ピンポイントで必要な情報が得られるようになった点は便利この上ないが、時間はかかるが図書館で目当ての情報を得ようと探し回る中で、周辺情報の中から思いがけずに有効な情報（副産物）を得る機会が減ってしまっていることも実感している。

図書館の書棚を眺め歩く中で、自分に大きく影響を与える本との偶然の出会いが何度かあった。その内の1冊が松籟社から出版された『ゆびで聴く』（小島純郎・塩谷治編著、1988年）である。盲ろうという重複障がいのハンディキャップを抱えながらも現在、東京大学大学院教授に就任して



いる福島智さんの中学時代から大学入学を果たすまでの本人と彼を支えた人たちの記録である。困難に挑み続け、創意工夫の末に大学入学を勝ち取り、大学での学びをサポートする歩みを記している。その後、福島さん始め支援に携わる方々の努力を起点にして全国各地に盲ろう者（児）を支援する組織が誕生した。それまで家族にかくまわれていることが多く、社会に出ることなく引きこもりでいるしかなかった方々が、きちんとその存在を認知され、地域社会に参加していくために必要なサポートが少しずつ展開されるようになってきた。今、世界中で取り組まれている「誰一人取り残さない」というSDGsの取り組みをいち早く始めていることを示している。

その本と出会った当時、私は東京・葛飾区教育委員会に所属し、社会教育の分野で学びの機会を提供する仕事をしていて、それらの取り組みの一つで、ハンディキャップを乗り越えながら活躍する方々のお話を伺う企画の中で、福島さんを講師にお迎えすることにも繋がった。1冊の本との出会いが、まず私自身が盲ろうという障がいと向き合い、それを勤務する地域の方々と共有し、自分たちに何が出来

るか考え話し合う機会をつくることにつながった。

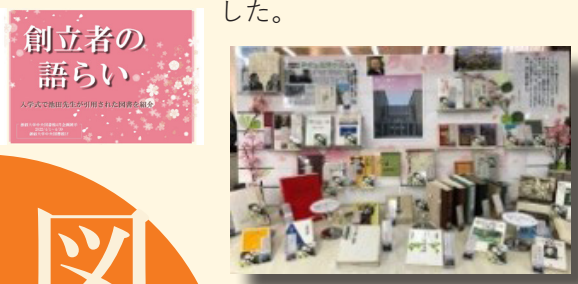
最近では地域にある公共図書館は、知的な刺激を受けながら、お金も使わずにたたくことが許される魅力的で貴重な「老後の居場所」であるという認識をもっており、退職後は他の利用者や職員に迷惑をかけないように意識しながら、地域の図書館に入り浸ろうかと考えている。現在も平日の昼間、図書館を訪れると高齢の男性が雑誌や新聞を読んでいる姿を多く目にする。他に居場所がないのかと少し寂しさも頭をよぎるが、近い将来、その仲間入りをさせていただけようかと考えている。



# 企画展示 Part 1

## 4月 「創立者の語らい」

新入生の入学にあわせて、第3回入学式(1973年4月9日)から第52回入学式(2022年4月2日)までの、創立者池田大作先生がスピーチまたはメッセージの中で引用された図書を展示しました。在学生の皆様にとっても、創価大学入学時の誓いを、創立者のスピーチとともに思い起こす機会となる展示となりました。



## 5月 「『SEASON』館報コラムより」

図書館報『SEASON』の中で、毎号掲載されている「コラムページ」はご存知でしょうか? その中では各学部の先生方による、読書・図書館に関するコラムが掲載されています。様々な学問を専門とされる先生方がどのような本をコラムの中で扱われたのか、展示として紹介しました。



## 6月 「日本の車窓から」

旅行をテーマに、読書の力で旅の楽しさを味わえるような図書を多数展示しました。展示スペースでは、「創価大学中央図書館」を駅に見立てたポスターを掲示。さらに図書館スタッフが作成した、岐阜県・白川郷を思わせる建物や、鉄道模型を走らせたジオラマも好評を博しました。



# オープンキャンパス

7月30日(土)、31日(日)に開催された創価大学オープンキャンパス。中央図書館では、現役の創大生による図書館ツアーを開催し、両日合わせて241名の方にご参加いただき、大盛況となりました。また、池田文庫の自由見学会も同時に開催し、未来の創大生や、そのご家族の皆様を真心を込めて歓迎いたしました。



# 図書館

## イベントやっています!

### 書庫へ入るための入庫資格を希望される方へ、

書庫利用講習会を開催しています。(本学所属学生のみ受講可) 5月よりほぼ毎月開催し、多くの方にご参加いただきました。本年度最後となる書庫利用講習会が11月21日(月)～25日(金)の日程で開催する予定です。今後も定期的で開催してまいりますので、是非ご参加ください。

〈参加者の声〉  
「広くてどんな説明が始まるんだろうとドキドキでしたが、端的に分かりやすく話して下さって楽しかったです。時間を見つけて使ってみたいと思いました。」

## 書庫利用講習会

## マナーキャンペーン

7月15日(金)～31日(日)まで、図書館全館でマナーキャンペーンを行いました。キャンペーン期間中、日ごろ図書館を利用させていただいている皆様への感謝の思いを込めて、貸出図書用の持帰り袋を配布しました。

これからもマナーを守って、皆様が気持ちよく使える創価大学図書館にしていきましょう。



## 図書贈呈会

### 5月 中央図書館 開催

中央図書館では、5月16日(月)～20日(金)に図書贈呈会を開催しました。学生や教職員を対象に、図書を1日1人30冊まで、雑誌を無制限で贈呈しました。(最終日は全て無制限でした!)

開催期間中551の方にご入場いただき、約5000冊が贈呈されました。感染対策のため人数を制限しながらの開催となりましたが、たくさんの方にご参加いただき、本当にありがとうございました。

### 7月 フレイザー図書館 開催

フレイザー図書館では7月18日(月)～29日(金)に図書贈呈会を開催しました。こちらの会場ではなんと贈呈冊数無制限!

中には、図書の付属品として現在ではあまり見られなくなったフロッピーディスク付きの図書もありました。参加者の皆様にとって貴重な本との出会いがありました。





# 企画展示 Part 2

## 8月 「暑さを吹き飛ばそう！」

今年も猛暑となった8月。水に関する資料を集め、各地の名水や源水をはじめ、海の歴史や物語、時事を紹介。「海洋学」「写真集」「水とビジネス」「水と環境」「水に関する小説」「水を知る」の6つに展示図書进行分类し、少しでも心涼やかに勉学に取り組めるような展示を目指しました。



## 9月 「こそあど文学賞」

芥川賞や直木賞など、よく耳にする文学賞の他にも、日本国内外には様々な文学賞があります。約50近くの文学賞受賞作品を集め、展示した図書一冊一冊には、図書館で廃棄される古新聞から作成した帯を付け、ポップなデザインで文学賞名・受賞年度をわかりやすく展示しました。



## 10月 「私の一冊」

思い出に残る一冊や、人生を変えた一冊はありますか？「あなたの大切な一冊を教えてください」をテーマに、図書館を利用する皆様からもアンケートを実施。創大生の皆さんが大切にしている「私の一冊」や誰もが知っているあの人の「人生を変えた一冊」をご紹介します。



# SBW主催

## 7月 「この夏は読書の波に乗ろう！ 図書館 読書応援キャンペーン」

今年の夏は思いっきり読書に励みたい！興味がある分野の本をたくさん読み進めたい！この夏、図書館ではそんな学生の皆さんを応援するキャンペーンを実施しました。対象期間内に図書館で借りた本の累計冊数に応じて、Soka Book Wave (SBW) 参加登録者へSBWポイントをプレゼントしました！



来て！



見て！



参加して！



図書館

# SBW × JWC 共催

## 7月 「あなたの推し本、教えて！ 持ち寄りブック紹介」

中央図書館1階ラーニング・commonsにて、本年度第1回目の読書イベント「あなたの推し本、教えて！持ち寄りブック紹介」を開催し、イベント参加者それぞれが友人に勧めたい本（推し本）を持ち寄り、その魅力や思いを語り合いました。お互いが普段接することのない本のジャンルに触れることで、新しい読書の世界を広げる機会となりました。



## 10月 「文献探索セミナー [導入編]」

レポートを書く上で必須となる文献探索。データベースや文献の特徴がわかれば、必要な資料を、より効果的に見つけ、レポートで求められる資料の適切な扱いができるようになっていきます。今回の図書館×SPACeレファレンス×日本語ライティングセンター共催セミナーでは、データベースや資料の性質を知ることと、今必要な文献を意識的に選択し調べることができるようになることを目指して、開催されました。

# SBW主催

## 9月 「学生選書ツアー」

9月5日（月）に、紀伊國屋書店・新宿本店にて、4年ぶりとなる、2022年度「学生選書ツアー」を開催しました。選書ツアーは、学生の皆さんが教職員と一緒に書店へ足を運び、図書館に置きたい本を直接選ぶ企画です。当日は6名の学部学生と、池田館長、図書館職員3名が参加しました。選書図書は10月下旬より図書館で展示され、貸出可能となっています。

<参加者の声>  
「たくさんの書籍に囲まれ、落ち着いた明るい空間の中で、興味のある本や目についた書籍を好きなだけ探し、読むことができとても幸せでした。」

自分がもともと好きだったジャンルの図書はもちろん、新たに興味の分野が開拓されたという面でも、とても楽しく、充実していました。」



中央図書館  
開館日程です

8:30~21:00

10:00~17:00

9:00~21:00

休館

## 10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

## 11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

## 12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

## 冬季長期貸出のお知らせ

大学の冬季休業に伴い、図書の長期貸出が始まります。この機会にぜひ、たくさんの本に出会ってください。

学部生・別科生・短大生：2週間貸出者

12月12日（月）～12月23日（金）

教職員・大学院生・通教生：4週間貸出者

11月28日（月）～12月13日（火）

一斉返却日：2023年1月11日（水）